

# アクアート人の起源

アクアート人はアトランタ北部の1地方に住む農耕民族だった。コーリプスの襲来によって危険なアトランティスから離れユーラネシアに移住したのは1万9000年ほど前、それ以降アクアートは栄華と屈辱の歴史を歩んできた。

# アクアート帝国誕生



アクアート帝国の国旗

今現在、アクアート人の殆どがアクアリア教徒だが、古エッダ教の発生やドリア人のユーラネシア進出によってアクアート世界が東西に分裂してから私たちの歴史は始まった。

アクアート内戦によってユーラネシア東部を失った西アクアートは高度な文明を忘れることなく依然、超大国として繁栄を極めることになった。制前1500年頃にはユーラネシアに住んでいた原住民ユーラネシアンの絶滅を完遂し(**ジェノサイド・コンプリート**)この地をアクアート人国家、**アクアート民主国**として建国することに成功する。

# アスガルド侵攻

制前2世紀頃、アクアートは近隣諸国を統一すると領地拡大のために山脈を挟んだ反対側のアクアート人の住まない未開の地アスガルドに侵攻。我々の圧倒的な軍事力ですぐに制圧は完了しその土地を吸収。その土地を**アスガルド[[1]](#endnote-1)**

アクアートのアスガルド侵攻について、**ハンニバル・レクター**軍帥はこのように語っている。[[2]](#endnote-2)



「アクアート人は自身を最も文明的だと主張しているが、アスガルドの暴虐と破壊は凄まじいものだ。アクアート人は、アクアート人に対して非常に紳士的だが、アース人に対して卑劣だ。老人、子供は使えないので殺し、大人の女性はレイプされ、大人の男性は無賃金の労働力として奴隷にされた。これのどこが文明的なのだろうか。いや、文明的ではない」

当時の文献からも、アクアート諸国植民地以前に、この当時からアクアートの暴虐性は間見えていたと言えるだろう。アクアートによるアスガルド統治は凄まじいもので、人々を奴隷として扱い無賃金で労働させ、食事は要塞の周りに生えている雑草、住宅は家畜小屋。とても人間として扱っている様子はなかった。

その後、アクアート元老院は「北部に住むアース国の民への破壊に対する人道的な対応の要求」を参謀に提出するが、参謀はこれを却下。それに対しアース人の不満は高まっていった。

# アスガルドの独立



アスガルドの地

## きっかけ

大航海時代の前、アスガルドに住むアース民族の多くが進んだアクアートの文明を享受して何不自由ない生活をしていた。そしてその国の住人は過去のようにアース人国家を建設したいと思うようになった。

## アスガルド・レコンキスタ

アクアートの植民地政策に不満を持ったアスガルド侵攻でアスガルド軍を率いたハンニバル・レクターがウィング州で謀反を起こしたが抑圧された(**ウィングの乱**)。その後、ドミノ式各州が独立への動きを見せ、遂に独立を許すことになり、**アスガルド連邦**ができる(**アスガルド・レコンキスタ**)。そしてアスガルドはユーラネシア山脈を挟んでアクアートと対立するようになった。

その後、近代化による超文明がユーラネシアやオーリンループに到来すると、コーリプスに変わってヴィンランド=アスガルド、そしてアクアートの2大勢力が拮抗するようになる。

# 開戦前夜

アスガルドはフラーヴ、ウィングランドと**東翼同盟**を締結した[[3]](#endnote-3)。アクアートは第12代皇帝**ウォーターゲート**によってアクアート北部のアームランドや翼州連合と**西翼同盟**を締結。アクアリア教国とエッダ教国は当時犬猿の仲であり、このとき初めて2宗派による同盟が実現した。(ウォーターゲートの奇跡)

# 第一次世界大戦

アスガルドはヴィンランドやニヴルヘイムを同盟に引き入れることに失敗し、アクアートがアームランド・翼州連合と同盟を結べたことに対し、事態を重く見ていた。またアクアートの軛になってしまうことを恐れたアースランド初代王は国力がまだ優っているうちにアクアートを支配することに決定。アクアートが東翼同盟のフラーヴへ侵攻したことでアスガルドへ宣戦布告。**第一次世界大戦**がはじまった。



我が軍も大戦初期は順調だったが、アース人の縦深攻撃によって我が軍は壊滅的な打撃を受け、首都ウォーターゲートを占領され制暦1500年に降伏。**フロータークリア条約**を締結し、我が国は分裂した。

|  |  |
| --- | --- |
|  |  |
|  | **フロータークリア条約文(原文)** |

# 我が国の植民地政策

こうして分断されたアクアート諸国の1国が我が国アクリスである。分断国家としての歴史は浅く、国家運営に大きな支障を来たした。アクアート諸国は当時の国力を取り戻すため、**アトランティス・コンクエスト**を実行した。



## アトランティス・コンクエスト(西アトランティス遠征)

アクアート解散後の1502年～1647年に起きたアクアート人によるアトランティス植民地政策である。アクアート諸国は第一次世界大戦の敗戦国で核兵器を持てなかったため、植民地を増やして軍事力を高めた。

この政策は大成功し、アクアートはアトランティス西部を支配することになる。特に港町として栄えた**フローターランド**や、アクルスが発展させた**サルサリア**には大都市が建設され、今でも世界有数の都市となっている。

|  |  |
| --- | --- |
|  |  |
| フローターランドの街並み | サルサリアのリゾート地 |

結果として、アクアート諸国はそれぞれがヴィンランドやコーリプス、カッタウ[[4]](#endnote-4)と等しい国力を持つようになり、再度アクアートが世界を支配することに成功する。(**アクアート再興**)

# 火水戦争

1673年に起きたアクアート連合軍と火付国の戦争である。火付国の「火」、水久亜(アクアート)の「水」を取って「**火水戦争**」と言われるようになった。

## きっかけ

　火付国は当時、主にアース人国家と同盟を結んでいた。火付国は当時最先端の技術をもっており、植民地政策で国力を徐に強化していったアクアート諸国(以下、アクアートという)にとっては、一気に国力を伸ばせるチャンスだと考えた。

　その後**火水同盟**(1658)を結び、技術を輸出してくれるはずだったが、一向に技術をもらえなかった。

　再び訪問して理由を問いただすと、アクアートも約束を守ってないと言い出した。

というのも、火付国はアクアートの水工業技術を交換の条件にしていた。口頭では無条件で条約を結んでくれるとのことだったが、国家契約書には「水工業技術の譲渡」が条件だった。譲渡、つまりアクアートには水工業[[5]](#endnote-5)の放棄を条件にしていた。この条約の結ばせ方と条件にアクアートは大激怒。戦争を起こすことを決意した。

## 戦争準備

アクアートは戦争をするための準備を始めた。戦争場所を**イーグル砂漠**にした。なぜこの場所にしたのかというと、この地域は殆ど人が住んでおらず、広い土地が確保できて自国への被害もないから。しかし、自国へも攻撃されると思い、アクアート連合国民には戦争をすると演説し、アクアート各国に約15万人収容できる地下シェルターを作った。イーグル砂漠各地に要塞を作り、本土には臨時の避難所も作って戦争に備えた。

## 開戦

　アクアート連合軍と火付国軍が出揃ったところで開戦。アクアートは事前に要塞を設置していたのに対し、火付国は要塞もなにもない状態で戦うので不利だった。当時コーリプス以外に空軍がないため、空襲を仕掛けることもできなかった。イーグル砂漠ではアクアート連合軍が勝利し、このまま終結するかと思われていたが、火付国軍が突如アクアートの各港を制圧。アクアート内への侵入を許してしまう。

　火付国は、イーグル砂漠では勝てないと思い、必要最小限の陸軍しか送っていなかったため、イーグル砂漠での敗戦は当然の結果である。火付国は、イーグル砂漠の軍を全滅させるよりもアクアート本土を制圧することを意識した戦略であった。本土からの急報を受け、火付国のカモフラージュ戦法に見事に翻弄されたことを理解した遠征軍は急いで本土に帰ることにした。

　遠征軍が約12日掛けて本土に帰国すると、そこに広がっていたのは破壊し尽くされた街だった…。倒壊した家屋、焼けた町、無造作に転がった死体、完全に機能が亡くなった都市。連合軍はシェルターが無かったらどうなっていたかを考えてゾッとした。

　連合軍は自国に戻り、シェルターを確認すると目を疑う光景が広がっていた。なんと火付国軍がシェルターを発見し、一般市民を人質にしていた。そして各国は火付国軍から人質を目の前で殺されるか降伏するかの二択を迫られ、絶望を味わった各国のアクアート軍は降伏を選んだ。

## その後

アクアート7国の全てが降伏を選び、戦争は終結。人質は殺されずに済んだがアクアート連合軍は敗戦した。この結果火付国の軛になり、我が国は大きく国力を落とし、ヴィンランド=アスガルドの1強時代が始まる。



# アクアート植民地帝国の終焉

アクアート植民地の歴史は火水戦争の終焉(**関所条約**)によって幕を閉じた。各民族は独立しその後冷戦が始まるまでその地域は禁足地として立ち入りが禁止される。その地域は文明の及ばぬ**第3地域**としてどこの国の影響下にも及ばない状態になり、後にそこで**共産主義**や**アバンギャルド**、**無政府主義**、**原子主義**などの思想が生まれることになる。



また、その地域には多くの**遊牧民**が存在しておりアクアートの管理の及ばぬ地では戦争も多発することになる。

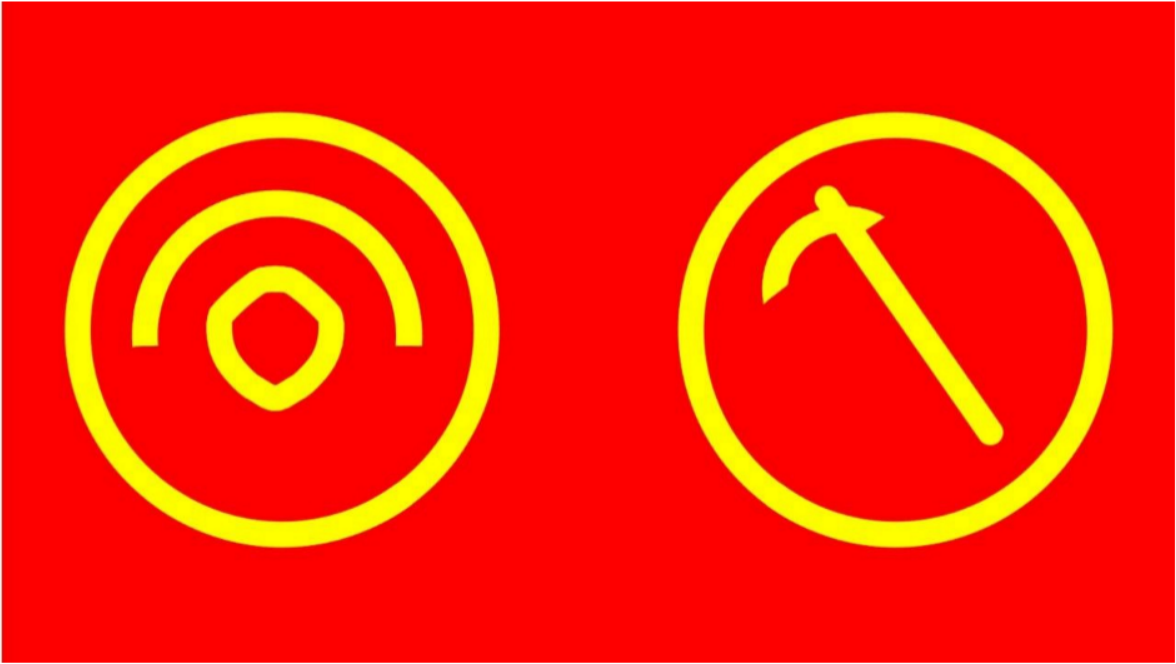
# ヴィンランドの独立とコーリプスの衰退

当時、大漢民国や火付国、アスガルドやアクアート諸国は衰退の一途を辿り、世界トップクラスの軍事力を持っていたコーリプスと独立戦争に勝利した新興国ヴィンランドの二大巨頭によって分断された。(**旧冷戦(東西冷戦)**)

この旧冷戦はそこまで長く続かなかったがこの影響によってコーリプスの開発した核兵器がユーラネシア及びアスガルド、そして第3地域に流出することになる。(**崩壊前夜状態**)

# 新冷戦

旧冷戦は共産主義勢力の出現によって僅か15年で終了した。



共紅旗(旧紅旗)

## 共同連邦

共産主義勢力は**共同連邦(赤の会)**を結成し世界各地を分断した。共同連邦とは、アトランティスの中堅以下の国同士が連携し、有事の際には協力して対応する連盟である。さらにはアトランティス外の国に対する抑止力として結成された側面もある。加盟国はアース人・アクアート人・漢人・コーリプス人国家と関係が悪い国が多い。赤の会加盟国同士の行き来にはパスポートが要らず、パスポート上は一つの国として扱われている。現実世界ではEUに近い。

## 理念

アトランティス諸国の相互扶助を目的とし、経済の発展を目指す。

アース人・アクアート人・漢人・コーリプス人国家に対抗できる経済力・軍事力を備える。

## 有事の一覧

* 未加盟国による侵略行為
* 裏切り(加盟国による侵略行為)
* 加盟国で起きた大災害(地震・台風・大規模な山火事など)
* 加盟国の経済危機
* 加盟国と未加盟国の国家関係の悪化

## 部門専攻

加盟国は部門専攻を選択する必要がある。部門専攻とは、どの分野を優先的に対策するかというもの。**経済部門**、**軍事部門**、**災害部門**、**観光部門**、**人種部門**がある。一つの国が複数専攻することはできない。

### 経済部門

経済格差を埋めるために貧しい国に物資支給を行い、効率的に経済発展していくための方法を考える。

### 軍事部門

他の同盟国の軍を鍛える監督を務める。軍資金や兵器の支給を行う。

あらゆる戦争を想定し、それに対して備えて軍事力を強化する。

### 災害部門

台風・地震などの自然災害を想定し、被害を減らすための設備や避難場所を確立する。同盟国で災害が起きた場合、現地に派遣される。

### 観光部門

観光地の保全活動・補修を行い、よりきれいな見た目にしていく。観光地周辺の町並みを整備し、外国人旅行者が満足するホテルや飲食店などを建設する。

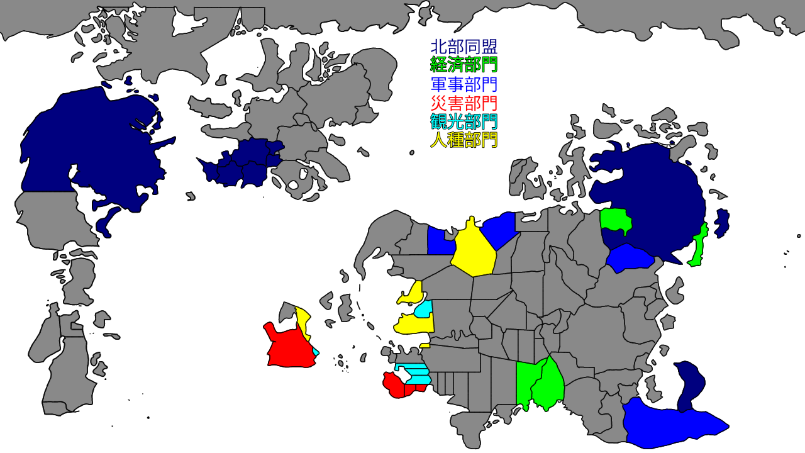
### 人種部門

人種差別を減らし、人種ごとの社会的格差を無くしていく。アクアート人などの奴隷になっている人々を開放する。

## 現在

コーリプスと大漢民国の同盟にアクアート諸国、ヴィンランド、火付国が加わる形で**北部同盟**を建設。この時点で**新冷戦(南北冷戦)**の構図が完成し我々アクリスも北部同盟に加盟している。

## 共同連邦と北部同盟の加盟国



# 国際問題

我々がかつて支配していた西アトランティスには大きな**貧困問題**が存在している。巨大な市場、世界人口の2割を有し資源も多いこの地域が繁栄しない原因の多くは未だに存在する**遊牧民勢力**、我が国の行った**奴隷制度**、このふたつが大きな原因として挙げられる。



**黒人の首を採取する白人**

これが世界中への移民(特に**アトランタ**への移民)を産み国際問題となっている。

1. 「アース人の地」という意味 [↑](#endnote-ref-1)
2. アスガルド戦記より1部抜粋 [↑](#endnote-ref-2)
3. ヴィンランドやニヴルヘイムを同盟に招き大アース同盟を建設する構想もあったが、2カ国は鎖国中立主義(モンロー主義)政策を行っており実現はしなかった [↑](#endnote-ref-3)
4. 当時の大漢民国 [↑](#endnote-ref-4)
5. その名の通り水を使った工業である。水力発電や、水から電気を作る技術、灌漑ダムなどがある。 [↑](#endnote-ref-5)